

第47回

こくみん共済 東京

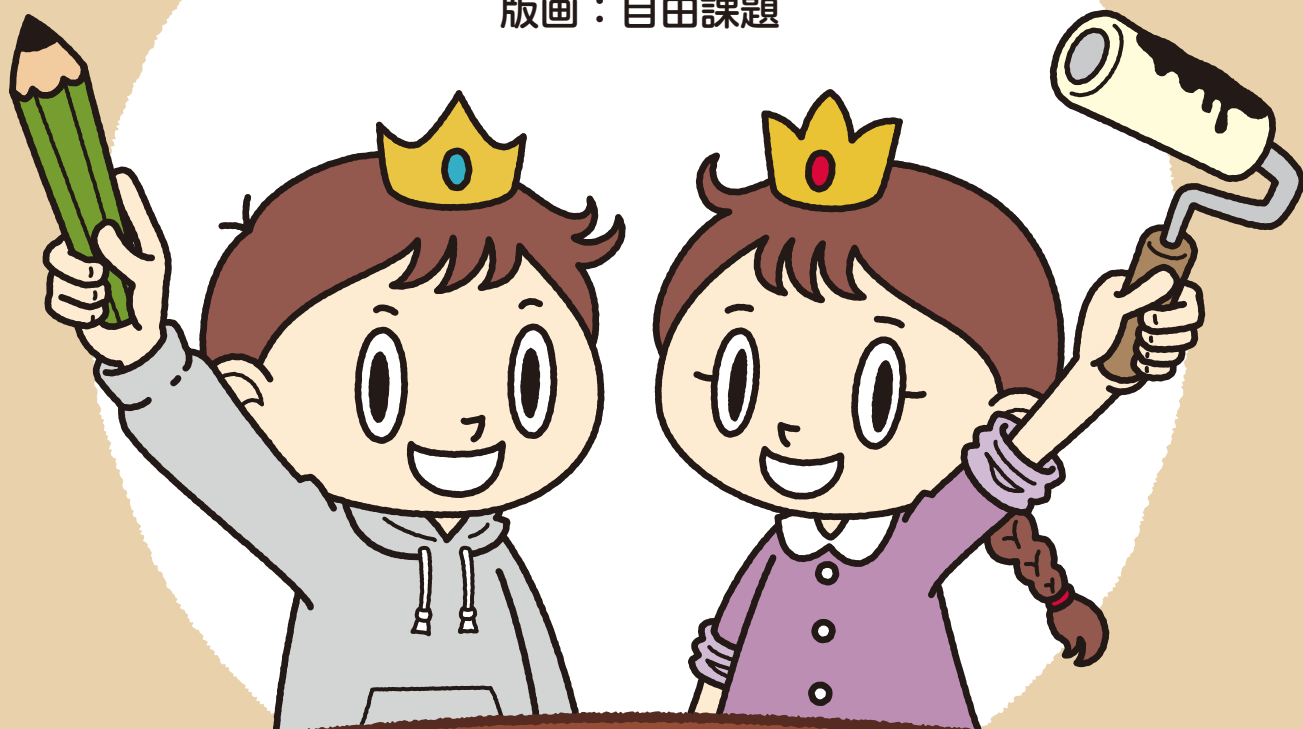
coop

小学生作品コンクール

テーマ

作文：新しく挑戦をしたこと

版画：自由課題



入賞作品集

主催：こくみん共済 coop 東京推進本部

後援：東京都教育委員会

はじめに

小学生作品コンクールは、1973年度の第1回開催以来、今年度で47回目（47年度目）を迎えることができました。今回は、作文125点、版画1,434点、合計1,559点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。当コンクールに向けて、一生懸命作文を書き版画を作り、応募くださった皆さま、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「新しく挑戦をしたこと」でした。日々の学校生活や習い事などでの挑戦とその過程が、読んでいく中で次々と頭に浮かび上がり、一緒にその出来事に挑戦しているかのような臨場感あふれる作品の数々をお寄せいただきました。版画は今年度も「自由課題」でした。今年の干支のねずみをはじめ、鳥や猫などの動物、空想上の生き物や風景画、抽象画や自画像など、バラエティ豊かなテーマと独創性がそれぞれの作品に詰め込まれていました。また、紙版画や木版画、単色の作品や多色の作品など、素材や色を上手に使い、さまざまな技法で制作いただきました。

本来は皆さまからご応募いただいた作文・版画の作品のすべてをご紹介したいところですが、紙面の都合上、作文・版画の金賞・銀賞に輝いた33点のみとさせていただきます。ご容赦ください。

最後になりますが、審査いただいた先生方をはじめ、ご後援いただいた東京都教育委員会、応募にあたりご指導およびとりまとめでいただいた先生方、そのほかご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

こくみん共済 coop 東京推進本部



もくじ

作文の部

コンクール入賞者

4

●金賞作品

6

●銀賞作品

23

●作文の審査を終えて

46

版画の部

コンクール入賞者

48

●金賞作品

50

●銀賞作品

56

●版画の審査を終えて

62

応募いただいた学校と作品数

63

応募作品数・学校数

64



はやねはやおき.....東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (1年)

ぼくの音色.....マクタ作文教室 (2年)

はじめての発表会.....新宿区立市谷小学校 (3年)

新しい家族をむかえるじゅんぴ.....光塩女子学院初等科 (4年)

高跳びへの挑戦.....光塩女子学院初等科 (5年)

背番号「4」への挑戦.....北区立岩淵小学校 (6年)

小山 高晃さん

棚瀬 準三さん

坂田 実優さん

竹村 綾佳さん

鮫島 麻里菜さん

落合 隼也さん



日本のしよくぶんかを学ぶ.....光塩女子学院初等科 (1年)

「できるかな」.....板橋区立蓮根小学校 (2年)

クロール50メートル.....新宿区立市谷小学校 (2年)

長きよりロングライド.....目黒星美学園小学校 (3年)

努力することががんばります。.....光塩女子学院初等科 (4年)

私とかるた.....光塩女子学院初等科 (5年)

未来の私へとどけ!.....光塩女子学院初等科 (5年)

ぼくが考えたこと.....東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (6年)

自学ノートとライバル.....東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (6年)

原 健人さん

佐々木 槇之介さん

安田 茉希さん

星 里桜さん

御園生 なぎささん

納 さくらさん

坂内 暁さん

副島 希心さん

渡邊 碧さん

コンクール入賞者



| | | | |
|---------------------|-------|---------------------|----------|
| ワクワクした学びがい | | 帝京大学小学校 (1年) | 守田 知世さん |
| はじめてのうみ | | 光塩女子学院初等科 (2年) | 新間 萌花さん |
| 新しくちようせんしたこと | | 目黒星美学園小学校 (2年) | 久保 舞華さん |
| USAサマーキャンプに行く | | 光塩女子学院初等科 (3年) | 岡 海英さん |
| いろいろなできたが集まる学会 | | 帝京大学小学校 (3年) | 稲富 結さん |
| 心のかべの向こうへ | | 東京学芸大学附属世田谷小学校 (3年) | 井上 ミモザさん |
| ぼくは作家 | | マクタ作文教室 (3年) | 大北 隼矢さん |
| 新しく挑戦したこと | | 新宿区立市谷小学校 (4年) | 山口 しるしさん |
| 新しく挑戦したこと〜マツト運動〜 | | 調布市立上ノ原小学校 (4年) | 遊佐 新さん |
| 完ぺきなえんぎ最高なえんぎ | | 帝京大学小学校 (4年) | 西 春樹さん |
| 世界と交流 | | 光塩女子学院初等科 (5年) | 小山 愛莉さん |
| 私の新しい挑戦 | | 光塩女子学院初等科 (5年) | 島貫 結衣さん |
| Let's communication | | 光塩女子学院初等科 (5年) | 吉田 圭穂さん |
| がんばれ、私 | | 狛江市立狛江第三小学校 (5年) | 山本 美桜さん |
| バレエで世界へはばたく | | 目黒星美学園小学校 (5年) | 平野 加恋さん |
| ありがとう、組体操 | | 練馬区立泉新小学校 (6年) | 日ヶ久保 りさん |
| 気持ちの結晶 | | 練馬区立泉新小学校 (6年) | 吉田 真央さん |
| 支えてくれる人たちと共に | | マクタ作文教室 (6年) | 大川 玲奈さん |
| ほこりを持って | | マクタ作文教室 (6年) | 姫野 修旗さん |

金賞

はやねはやおき

東京都立大塚ろう学校
城東分教室 小学部 (1年)

こやま
小山
たかあき
高晃さん

「はやねはやおき」

小山 高晃

ぼくは、「はやねはやおき」に
ちようせんしています。まえに、
「どうこうじかんがおそいよ」と
ともだちにいわれました。ちよ
とくやしくなりました。どうや

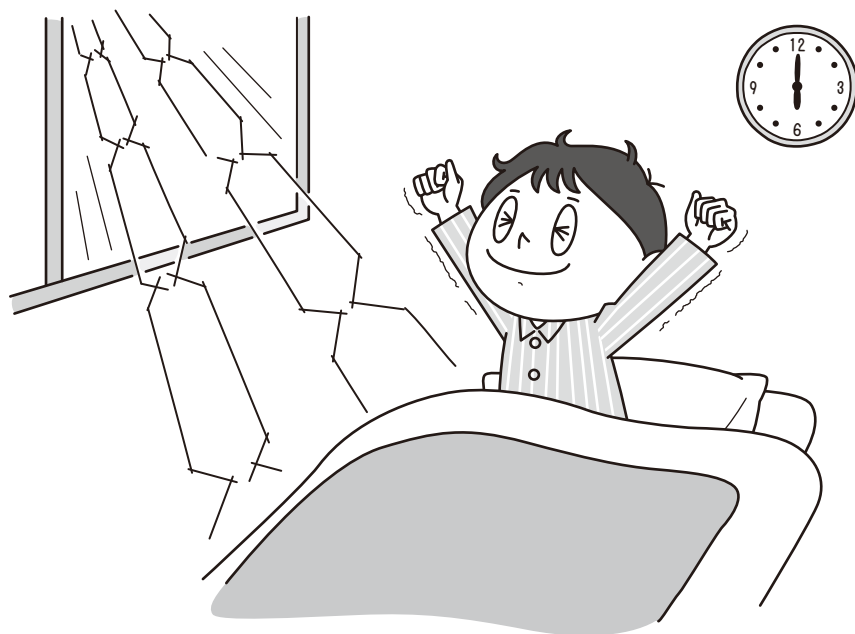
たり、ぼくもはやくとう校できる
のかなとかんがえました。クラス
で一ばんにぎようしつにつきたい
とおもいました。だから、「はや
ねはやおき」をがんばることにし
ました。

「はやねはやおき」をするよう
になつてかけ、いいことがありま

した。一つめは、あさごはんをし
。かりたべられます。二つめは、
あさのしたくをあおてずにするこ
とができます。三つめは、みんな
から、「はやい」といわれます。
うれしくて、きぶんがいいです。
あさごはんは、とてもたいせつ
です。し、かりたべると、一日は

んきいすごせます。よくうごく
つかれます。つかれるとおなが
がすきます。おなががすくとよくた
べられます。まんぷくになるとね
むくなります。すぐねむれてしむ
んとおきられます。これが「はや
ねはやおき」です。これをくりか
えすとけんこうなからだがつくち

ます。
 ぼくは、はやおきのコツをし
 ています。かぞくにおこしてもら
 ったり、めざましどけいをつかっ
 たりしません。しせんにおきるほ
 うほうです。それは、はやおきの
 たのしみを見つけることです。ぼ
 くは、はやおきのたのしみがある
 とき、しせんにおきることができ
 ます。「あさごはんですきなもの
 がたべられるとき」「よみきかせ
 のとうばんになっっているとき」「
 やりたいことがあるとき」です。
 やすみがつづくと、せいかつり
 ズムがみたえます。なので、ふゆ
 やすみは、学校がある日とおなじ



じかんにはやおきして、まいにち
たのしくけんきにすごしたいとお
もいます。みなさんも、ぼくのほ
うほうをさんこうにして「はやね
はやおき」をまいにちつづけてみ
てください。「はやおきはニモン
のとく」です。すこしいいことが
あるかもしれませんよ。

選評

悔しい経験をもとに、「早寝早起き」に挑戦しようとした小山さん。目標をもって挑戦すること、自分自身に起こったいいことを、具体例を用いながらとても前向きに書き表している。『早起きは三文の得』ということわざを使ったり、読み手に呼びかける工夫があったり、読んでいるこちらにも挑戦してみようという気持ちにさせてくれます。

金賞

ぼくの音色

マクタ作文教室（2年）

棚瀬 たなせ

準三さん

ぼくの音色

二年

棚瀬

準三

一年前のお正月、ぼくは日ひょうをたてた。それは、大好きなバイオリンで、バッハの「むばんそう西を、上手にひけるようになろうこと。

そのために、

「かならず、毎日れん習するぞい」

とちかっ。たぶくは、どんな日もかかえず、バイオリンにふれた。みじかい日は三十分、長い日（長い）時間ほどのれん習をかさねていった。そのかいあって、今年は、「むばんそう西

だけでなく、新しい曲が七つもひけるようになった。広い場所でもひきたくなくなって、たくさんコンクールにも、かんがした。

コンクールでうれしかったのは、ホールにひびく、ぼくの音色を聞いた時だ。とても楽しいだった。たかうだ。

バイオリンは、自分で音を作り、うたうよ

うにひくことができる。そのはんめん、自分の心が表れやすい。

もちろん、バイオリンからぎこちなかった音がでてしまった。うびきかたの見直しだけでなく、自分の心と向き合うひつようがある。

だから、自分の、はずんだような明るい音色で、ホールがいっぱいになったときは、たまんぞくだった。

ぼくのこれからのもうせんは、新しいわざがでるようになっていくことだ。

よさに今も、より楽しい音色になるように、うきおともてはねさせて、

「トトトッ」

と、いうきを出すスピカートのれんしゅうをしているところだ。

ほかにも、バッハの曲で、かっこいい曲なびを、スラスラひけるようになりたい。コンクールのゆうしょうにむけても、ちようせんしてきたい。

ぼくもいつか、大好きなバイオリンニスト、

ホールマンがつむぐようなきれいな音を、ホールマンはいいようにびびかしたい。

「バイオリンの音って、きれいだな。ぼくも、ひいてみたいな。」

と、習い始めた三歳のぼくに、さいしよの先生は、バイオリンの楽しさを教えてくれた。先生のおかげで、ぼくはバイオリンが、もっと好きになって、今では、自分ですうみんできこるようになってしまった。

先生とはもう会えなくなっちゃったけれど、ぼくの中に、ぼくの音に、先生はずっとずっと生きている。

選評

目標のために、こつこつ努力を重ねていることがよく伝わります。理由の書き方や例えの使用方も見事です。特に、「自分の心と向き合うひつようがある」という言葉から、真摯にバイオリンに向き合い、成長していることがよく分かります。ホールマンはきれいな音色を響かせるバイオリストを目指して、成長していったようです。

金賞

はじめての発表会

新宿区立市谷小学校（3年）

坂田 実優さん

はじめての発表会

三年二組 坂田 実優

わたしが今年の夏に新しくちようせんをしたことは、バレエの発表会に出て、おどることです。

七月三十日、千人ぐらいのおきゃくさんの前に、わたしは立っていました。たくさんのおきゃくさんの前でおどるのは、はじめてなので、とてもドキドキしていました。きんちようしている気持ちとともに、「や」とこの

日が来た」と、うれしい気持ちにもなりしました。

なぜなら、わたしがバレエを始めたき、かけは、二年前に友だちのバレエの発表会を見たことだからです。二年前にみた時、「わたしもバレエを習って、あんなふうに上手におどれるようになりたい。わたしも発表会に出て、たくさんのおきゃくさんの前でおどりたい」と、思いました。

すぐにお父さんとお母さんに「バレエを習

いたい」とおねがいました。お父さんとお母さんがわたしの気持ちを分がってくれて、バレエを習えることになりました。

はじめてバレエ教室の体けんに行ったのは、わたしが小学一年生の終わりのころでした。音楽に合わせて体を動かすのはとても楽しかったです。けれども、バレエの言葉と動きをおぼえるのが大へんでした。バレエの動きは先生がフランス語で言うので、言葉と動きをおぼえていないと何をやるのか全く分かりま

せん。バレエは三才、四才などの小さいころから習い始める子も多く、わたしはバレエ教室の同じ学年の子の中で一番さい後に習い始めました。小さいころから何年も習っている子は、バレエの言葉と動きをたくさんおぼえているので、とても上手に見えました。でも、バレエの先生は、

「大じようぶだよ。何年も習っている子にくらべて知らない言葉が多いのは仕方ないよ」と言って、わたしに動きをていねいに教えて

くれました。わたしは先生にはげまされてうれしかったです。これかられん習をもっとがんばろうと思いました。

バレエを習い始めた一年くらい後、発表会にむけてのれん習が始まりました。発表会のれん習は、今までのき本のれん習よりもさらに大へんでした。とくに、はじめはおどりをおぼえるのがおぼろしくかったです。はじめて発表会のれん習が始まった日、発表会まで半年くらいありましたが、発表会までのレッス

ンの回数をわたしは数えました。発表会までにおどりをおぼえられる心配になったからです。

れん習がつづけると、おどりはおぼえられただけで、もう一つ大へんなことがあります。た。おどりがらいち動いていくのに、自分がどの場所にいればよいのか分からない時がありました。

わたしのバレエ教室は、すきな曜日にすきな回数のレッスンがうけられるため、全員が

一どにそうすることはふだんありません。だから、ふだんは二人一組でおどる場面も、相手の子がれん習日ではない時は、相手がいるとそうぞうして一人でおどります。そして、月に二回くらいは合組れん習の時に全員そろうので、自分のいちのかくにんをします。わたしはバレエを習って、発表会のれん習にはそんなにうろたわらなかった。はじめに知りました。いよいよ発表会当日、わたしの二人一組でおどる相手は、二年前にわたしを発表会にさ

そつてくれた友だちです。顔を見ると、安心しておどることができました。大きなまがいがなくおどれてよかったです。

発表会を終えて、ドキドキしたけれど、とても楽しかったです。そして、バレエ教室のお姉さんたちのように上手におどりたいので、もっとれん習ががんばりたいと思いました。

もし、わたしの出た発表会をみていたおきやくさんの中に、わたしのように、バレエを習いたいと思うてくれた子がいればうれ

です。

ます。



新しい家族を むかえるじゅんぴ

光塩女子学院初等科（4年）

竹村 たけむら

綾佳さん あやか

新しい家族をむかえるじゅんぴ
光塩女子学院初等科 四年 竹村 綾佳
私はお父さん、お母さん、ニオとし上のお
姉ちゃんの四人家族ですが、九月に新しく家
族がふえます。妹が生まれるのです。お父さ
んお母さんから、初めて聞いた時は、ひく
りして言葉が出ませんでした。いっしょに聞
いていたお姉ちゃんもとてもびっくりしてい
ました。すごくびっくりしたけれど、なんだ
かドキドキしました。最初は本当にお母さん
のおなかに赤ちゃんがいるのか信じられなか
ったけれど、うれしくて生まれてくるのが楽
しみになりました。赤ちゃんが生まれてくる
ために、お父さんとお母さんいろいろとし
ゃんびしています。ベビーベッドを組み立て
たり、オムツや、小さな洋服を用意したり、
赤ちゃんのために一生けん命です。私が生ま
れてくる時もこんなふうにいろいろと考えて
しゃんびしてくれていたと思うとうれしい気
持ちになりました。

お母さんのおなかか、だんだんと大きくな
ってきていつもは元気なお母さんが、体かつ
らうで、よく休けいするようにしました。
おなかの中で赤ちゃんを育てることに大変な
ことなんだと思いました。お姉ちゃんはそん
なお母さんを見てそうじ機をかけたリ、おふ
ろをあらったりするようになった。私も
お母さんを助けられるように、自分のことは
自分でやるようにしました。
夏休みの間にはごはんの用意をすつた。た
りお米をといたり、お買い物を手伝いした
り、せんたくものやふとんをほしたり、いつ
もお母さんかや、ているいろいろな家事に初
めてちょっうせんしました。
お米をといでみて分かったことがあります。
お米にはしめに水を加えたらゆっくりしては
いけません。ゆっくりしているとお米につい
ていたぬかのおいまでお米がすすりまう
からだそうです。その後もお米が流れないよ
うに気を付けて何回もお水をかえなければい

けません。ふたんお米をなにけなく食べて
 たけれどその前にこんなに変なことをし
 いたことを初めて知りました。
 せんたくものやふとんをほすのは、前は
 かとどかなくてできなかった。たけれど、この夏
 休みにはせか高くなつてできるようになつて
 いました。ここでも気がついた事があります。
 それは、思つていたよりふとんかとても直
 てそれを家族全員がきれいにしておくこと
 大変だということでした。また夏は天気か
 変わるの、天気をいつも気にしていなけれ
 はいけません。
 私の家では、買い物は一週間分をまとめ
 買っています。前はスーパーにたついでい
 っただけだったけれど、手伝いはじめて
 かり、何かどこにあるのかだんだんわか
 るようになつてきました。一週間分の買
 物はとても重く、運ぶのも持つて帰るから
 うのもとても大変でした。お母さんの大
 おなかではとても一人ではできないと感



した。
 このように今まで見ていたお母さんの仕事
 はやってみると思っただけ以上に大変でした。
 お手伝いをするとお母さんはいつも「ありが
 とう。とても助かるよ。」と私やお姉ちゃんを
 はめてくれます。でも今まで私は家事はお母
 さんかして当たり前だと思っただけで、こん
 なに大変な仕事を一人でいつもやっていたお
 母さんをもろにいしました。これから赤ちゃ
 んが生まれたら、といえなく思っています。
 ので、お母さんみたいにしっかりやるのはま
 だまだむずかしいですが、お姉ちゃんと協力
 してたくさんのお仕事をできるようにしたい
 です。また、赤ちゃんが生まれたら、初めて
 のだっこをしたりお風呂に入れてあげたりた
 くさんの新しいことをやってみようと思
 います。

選評

当たり前だと思っていた家の
 仕事。お母さんの分も、一生懸命
 頑張ったのでしよう。新しい
 家族を迎えることへのわくわく
 した気持ちと、「お姉さんになる
 んだ」「お母さんのために」と
 いう責任感が伝わります。また、
 赤ちゃんが生まれたらしてあげ
 たいことを、更に新しい挑戦と
 して打ち出しているところも見
 事です。立派なお姉さんになる
 ことでしょう。

金賞

高跳びへの挑戦

光塩女子学院初等科（5年）

さめしま
鮫島

まりな
麻里菜さん

「高跳びへの挑戦」

光塩女子学院初等科五年 鮫島 麻里菜

「えっ！こんなに高いのを飛ぶの？」

私が初めてそれを目にしたのは、駒沢体育館の地下にあるオリンピックメモリアルギャラリーでした。二つのポールの間にバーが渡っています。そう、走り高跳びのバーです。これを背中をのけぞらせながら飛びこえるなんて、なんだかドラマやマンガの世界のようです。私が見上げていると、お母さんが

光塩女子学院

「高跳びの選手のことを、ハイジャンパーというんだよ。すごいね。こい名前だね」と言いました。私は、

「飛んでいる姿、なんだかエビみたいだね」と思わず笑ってしまいました。

五年生になって、体育の授業で、見覚えのあるポールとバーが用意されました。私達も授業で走り高跳びをやることになったのです。メモリアルギャラリーで見たものよりは小さかったのです。

「よし、飛ぶぞー！」

とやる気満々になっていました。絶対に飛べるもん、とまるで選手になったような気分でした。一歩、二歩、三歩、助走のあとミ。

「がし、ん！」

私の体と共にバーは地面にいました。これではえびではなく、いのししです。この一瞬で私の自信は小さくしぼんでしまいました。

さっきまで小さく見えていたポールとバーが、急に巨大なかべのように私の前に立ち

光塩女子学院

だか、てしまいました。

「なんだか怖いなミ」

とまで思えてきてしまいました。もちろんエビのようなジャンプなんて全くできません。

先生が、

「とにかく足をあげて跳んでごらん。自分の飛びやすい跳び方を一つ一つ見つけてみる」といいよ。

と言いました。バーの高さを考えると、私は足を相当高く上げなくてはいけないな、と思

い、最初は足を高く上げる練習をしました。
「足はまっすぐ、高く。上げる、というよりも振る、というイメージ。」

と心の中の自分に言い聞かせながら、足を動かしてみました。その時、私はふと、イチロー選手の引退会見の言葉を思い出しました。
「人の倍、努力することは出来ないけれど、少しずつ、少しずつ努力を積み重ねていけば、いつの間にか人の倍の努力になる。」

光塩女子学院

私のバの中で、何かかはじめて動きはじめました。何度も何度も足を動かしました。その場でバーを想像しながら、飛ぶイメージも作ってみました。時間が過ぎていくはずなのに、すが、なんだかのかのんびりと、周りが待っていてくれるようでした。
「よし、出来る！」
助走をつけて勢いよく跳びました。フワッと体が浮きました。
「あれ？ あら？ わあー。」

気が付いたら、バーは私の後ろにいました。すると、先生は、
「さすが！ 出来たじゃん！」

と言って私の背中をぽん」と押してくれました。最初に勝手に感じていた自信とは全く違いました。うれしくて、もう一度跳びたい！ と思っていました。

光塩女子学院

努力をすれば出来る。積み上げることが大切なんだ、と私は実感しました。最初、五十センチだった。たバーの高さが、いつの間にか九十センチにまでなっていました。イチローの言っていたこと、それを聞かせてくれた先生の思いを、少しでも理解して受け取ることが出来た気がしました。今の私には、思いこみの自信ではなく、努力をしたという自信がついたのです。
私はまだ、エビみたいにかいかなジャンプはとべません。でも、バーを飛びこえる景色と、飛び終わったあとに見上げるバーは、と

てもきれいで、バーも、
 っよく頑張ったね！」
 と言ってくれているように思えます。先生も
 言っていた、
 「人には出来ないことはない。努力すれば、
 きっと乗り越えられる。」
 という言葉の意味が、この高跳びの挑戦で理
 解できたような気がします。まだまだ努力
 は必要だと思います。でも、この初めての挑
 戦に対する勇気は、これからの私のパワーに
 変わっていくと信じています。

光塩女子学院

選 評

跳べずにあまりにも高く感じ
 てしまったバーを「巨大な壁」
 成功した時の気持ちを「バーが
 『よく頑張ったね。』と言ってく
 れているよう」などと実に豊
 かな比喻表現で書くことができ
 ました。心の動きまでも、読み
 手に伝える効果がありますね。
 挑戦し恐怖心を高く跳び越えた
 鮫島さんのパワーを色々な場
 面で、是非生かして行ってほし
 いです。



金賞

背番号「4」への挑戦

北区立岩淵小学校（6年）

落合

隼也さん

背番号「4」への挑戦

落合 隼也

ぼくは野球が大好きだ。それほど上手ではないけれど。ヒットやホームランをたくさん打てるわけではないし、守備は仕せろ！と言えるほど守めるわけでもなく、盗塁いさけいかいさめるほど足が速いわけでもない。でも、ぼくの手でしっかりとにぎる事が出来る位の大きさのあの白いボールを一生けん命に追いかけるのが大好きなのだ。

四年生の時に今のチームに入って、初めてもらった背番号は「5」：ポジションはサード。ぼくはサードの守備のし方を早く覚えようとがんばった。サードとは、うつ目のベースを守り、ボールを捕った後は正面のホームか、左のファーストがセカンドに送球をするラインのギリギリを抜ける様な打球を止める。バントをされた時には素早くダッシュして捕球する。気持ちを強く持っていないと捕れないポジションなのだ。ぼくがそんなサード

を任された理由は、投球力があつたのとコーチから言われた。ファーストまで一番きりのあるサードには、ボールを遠くまで投げることの出来る力が必要なのだ。

ところが、五年生になって入ってきたメンバーが、今年は背番号「5」をもらった。六年生としては平均的な身長しかないぼくよりも、その子は10センチ以上も背が高く、強い球を遠くまで投げる事が出来る力があるのだ。

「次、隼也。」

とかんとくに名前を呼ばれてぼくがもらった背番号は「4」：ポジションは、セカンド。今まで練習してきたサードとは、動き方も景色も全くちがう。ぼくに与えられた新たな挑戦だ。捕ったボールは正面のホーム、左のファースト以外に、右のセカンドやサードに投げる事もある。セカンドは、ショートとの連携がものすごく大事で、二人でセカンドベースをするのだ。また、ファーストのファロ

いて、いるいにダッシュをして捕球しなければいけない事もある。

外野に打球が飛んだ時の動きは、本当に難しい。一緒にボールを追いかけるのか、中継役としてボールをもらいやすい場所にいるべきなのか、ランナーを迎えるためにセカンドベースにいます方がいいのか。野球というのは、身体だけではなく、実はものすごく頭を使うスポーツなのだ。打球の行き先を見て、しゅん時に自分がどう動くべきかを判断しながら、

くではいけないのだ。その基準となる位置が、二年間守ってきたサードとセカンドでは全くちがう。かんとかやコーチに何度も怒られ、その度に教えてもらい、教もった事を忘れない様にするためにノートに書き留めたりもした。

それでも夏の合宿を終えた頃には、ようやく背番号の「4」が、しつくりくるようになってきた気がする。決して強くないばかり連年のチームは、秋の大会で勝利することが出来

たのだ。そしてそれだけではなく、バスト4に入る事も出来たのだ。

そして十二月、いよいよチームを卒業する「卒団式」が行われた。一年間一緒にがんばってきた背番号「4」ともお別れだ。背番号が無くなったぼくのユニフォームの背中には、真の白ですごく殺風景で、なんだかさびしいものになった。

分からない事だらけのセカンドの守備への挑戦。ぼくには最初は少し、いや、かなり重く感じられた「4」という背番号が、最後には心地よいものになっていった。

四月からは中学生になる。ぼくは中学校へ行っても、野球を続けたいと思っている。新しいチームで、新しい仲間と新しい環境で、そして新しい背番号で始める事になる。正直、不安な気持ちは大いだけれど、ぼくにとっての新たな挑戦の始まりだ、と思っ

て臨みたいと思っ

新しい事への挑戦は、大変な事もあるし、

辛い想いをする事もあるし、恐怖心もある。
でも、努力をしたリがんばったリしたその先
には、絶対に自分の成長につながる何かがあ
るはずだ、とぼくは信じている。
今度はぼくの背中には、一体どんな番号が
くるのだろうか？

選評

下級生にポジションを奪われ
た悔しさ。セカンドとして新た
なチャレンジを通して勝利する
ことによって得た自信。背番号
の重みを感じながらたくましく
成長していく様子が伝わりま
す。「絶対に自分の成長につな
がる何かがあるはずだ」と、挑戦
する思いを持ち続けて未来に向
かう姿が立派です。これからの
更なる成長を応援したくなる作
品です。

銀賞

日本のしよくぶんかを学ぶ

光塩女子学院初等科（1年）

渡邊

碧さん

「日本のしよくぶんかを学ぶ」

わたなべ あおい

「こんどみんなでたんぼにおいで。」

と、おこめやさんのおばさんがいきました。

ち月のおわりごろにおこなわれ、ていけいのうかのだうえシアターです。わたしはおかあ

さんといとこのおにいちゃんといっしょに、

シアターにさんかすることになりました。

シアターのとうじつ、とてもあさはやくからおこめやさんのまえにしゃうごうしました。

一

こんなにあさはやくからわでかけたことがないので、ねむくてたまりません。ですが、目のまえに大きなバスがあったので、早くたんぼを見たいさもちになりました。

たんぼがたくさんありました。たんぼの中をのぞくと、あめんぼやかえろやわたまじゃくしがいました。草のそこには、こおろぎやバッタがいました。おにいちゃんたちといっしょに虫をつかまえて、むちゃうになてあそびました。

「だうえはじめのよー」

と、のうかのおじさんがいきました。いそいでたんぼにむかい、くつをぬぎくつしたをぬぎました。さ、そくたんぼにはいると、

「ひゃああ」

と、こえがでました。つめたい水と足の下どろろきもちよかったです。おじさんのしじにしたがってなえを2、3本ずつうえていきました。おじさんのあいずで、一ぼまえにでてまたうえます。一つのたんぼをつえおわる

一

のに、みんなできょうりよくしてもたくさんじかんがかりました。のうぎょうってたいへんだなあとかんじました。

たうえがおわるとおましかねのおひろごはんです。まぎでたいたおひまのごはんととんじると、さやべつとさやうりのおつけものです。だうえをしてつかれたのでとてもおいしくかんじました。わたしはいつものうかのかつくったおこめをたべているので、かんしやのさもちをもつてごはんをたべようとおも

いました。

かえりのバスではとてもつかれていたので、ぐっすりねむってしまいました。あ、というまにおこめやさんにつまました。

あまのいねかりツアーにもさんかして、じぶんがつえたいねをかって、たべてみたいです。ぜったいにおいしいはずですよ。そして、あまの虫もたくさんつかまえます。



いました。それを見て、おばさんが言いました。

「よし、ふかいところまで行、ておよう」
ぼくは、心んぱいだったのどうきわをもって行こうとしました。でも、おばさんにかえられて、足のつかないほうへなげられました。「ヤバイヨ」ぼくは、ひっしにしずまないようにしました。

「すごい。およげたじゃん」

まわりにはいたおんながはく手をしてくれました。

た。ぼくは、およげたので、びっくりしたけれど、すぐくうれしかったぞ。

東京にもどり、学校のプールに行きました。前よりも、およげるようになったし、水なんて、ちっともこわくなくなっていました。

夏休みさいごのプールは、けんてい日でした。ぼくは、四人のグループでおよぎました。プールのはしからスタートです。先生のふえの合図で、およぎはじめました。

「だいじょうぶかな」ぼくは、心ぱいでした。

だけど、ぼくは、できるとしんじておよぎました。と中でくるしくなったので、ちうそうになりました。でも、まけたくなかったの、さいごまで、がんばりました。

「やったー。二十五メートルおよげたぞ」
と思い、しぬほどうれしかったのですが、ぼくは、十二、五メートルおよげるの六きりうだったのです。二十五メートルおよげたと思っていたので、くわしかったです。でも、六きりうなれたことは、うれしかったです。

クラスの友だちに、
「きばくん、もう六きりうなの？すごいね」
と、おどろかれました。ぼくは、あきらめず、ちよせんしてよかったです、その時すごく思いました。

それからぼくは、スイミングスクールに通いはじめました。

今では、クロールで二十五メートルおよげるようになりました。およげるようになるのは、たのしいです。来年は、クロールで二十五

スイートルおよげるの四きゅうにちようせん
しょうと、思います。





クロール50メートル

新宿区立市谷小学校（2年）

坂内

暁さん

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|---|---|----|---|---|---|---|----|---|----|----|---|---|----|
| る | に | ク | し | あ | わ | リ | す | ＝ | か | ＝ | 今 | な | ル | け | わ | | ク |
| ん | お | ロ | ま | ち | た | あ | る | | お | | ま | る | 50 | て | た | | ロ |
| だ | よ | ール | した | ゃ | は | き | ち | | よ | | で | こ | メ | の | し | | ール |
| よ | か | を | 。お | ん | は | ら | よ | | げ | | は | と | ー | 目 | の | | 50 |
| レ | に | 上 | お | に | お | め | く | | ず | | 20 | す | トル | ひ | 夏 | | メ |
| | は | 手 | あ | お | え | い | せ | | ど | | メ | | を | う | 休 | | ー |
| | 四 | に | ち | し | ぎ | ま | ん | | う | | ー | | お | は | み | | トル |
| | つ | 苦 | ゃ | え | の | し | で | | し | | トル | | よ | 、 | か | | |
| | の | しく | ん | も | と | 。そ | 息 | | て | | ぐ | | う | プ | ら | | |
| | ポ | く | は | ら | く | こ | が | | モ | | ら | | げ | ール | 2 | | |
| | イン | く | | う | い | な | 苦 | | タ | | い | | る | で | 学 | | |
| | ト | な | | こ | い | お | し | | ー | | し | | よ | ク | き | | |
| | が | ら | | と | な | は | く | | ソ | | | | う | ロ | に | あ | |
| | あ | ず | | に | お | | な | | を | | | | に | | か | き | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| り | を | れ | 早 | る | と | ん | う | ＝ | で | ＝ | こ | 三 | け | つ | め | と |
| も | 一 | た | く | こ | ど | と | な | | す | | を | つ | て | め | に | 一 |
| ず | つ | し | 上 | と | す | ま | 形 | | し | | お | め | い | は | 、 | 教 |
| い | 一 | は | 手 | で | 。こ | っ | に | | せ | | の | は | る | 、 | ば | え |
| ぶ | つ | そ | に | し | れ | す | そ | | い | | で | こ | 手 | こ | た | て |
| ん | い | れ | な | せ | の | ぐ | る | | は | | は | き | 、 | き | 足 | く |
| 上 | し | そ | る | い | の | な | の | | 、 | | さ | う | ま | う | を | れ |
| 手 | き | の | の | が | ポ | し | で | | え | | い | の | く | の | と | ま |
| に | す | や | の | そ | イン | せ | は | | い | | ご | ら | ら | と | め | し |
| お | る | く | の | う | ト | い | な | | ご | | は | に | に | き | な | た |
| よ | こ | そ | さ | で | を | で | く | | の | | し | す | 水 | い | い | 。ま |
| げ | と | く | う | っ | ま | お | て | | ウ | | し | る | に | こ | ず | ず |
| る | で | ご | ず | て | も | よ | き | | の | | せ | を | つ | と | は | は |
| よ | 前 | と | 。 | | こ | ぐ | ち | | の | | い | | | ニ | い | い |
| う | よ | | | | | | | | の | | い | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|----|---|----|---|---|---|
| 思 | り | あ | ち | た | や | ま | や | ＝ | や | と | ん | う | 足 | れ | っ | に |
| い | じ | ま | ょ | 。レ | っ | た | く | | う | お | で | じ | の | は | て | な |
| な | ゃ | り | う | れ | て | は | す | | レ | そ | し | い | は | ば | い | り |
| が | う | か | せ | た | み | た | す | | て | い | た | の | さ | た | る | ま |
| ら | よ | り | ん | し | も | は | む | | み | パ | 。け | か | は | 足 | か | し |
| お | う | ら | し | は | わ | た | こ | | る | タ | れ | 自 | の | の | だ | た |
| ば | で | な | た | 、 | か | の | と | | と | ー | ど | 分 | は | は | い | け |
| あ | は | か | け | なん | ら | 高 | が | | は | ン | は | で | や | あ | が | れ |
| ち | な | っ | れ | ど | な | さ | わ | | や | に | や | わ | さ | り | あ | ど |
| ゃ | の | た | ど | も | い | に | か | | い | 分 | い | か | で | ま | し | の |
| ん | か | の | ち | なん | こ | つ | り | | ほ | パ | り | ち | す | た | た | こ |
| に | な | あ | ら | ど | と | い | ま | | う | タ | ま | よ | 。は | そ | そ | |
| 聞 | ？ | ま | も | も | で | て | し | | が | ー | せ | た | た | そ | | |
| い | と | あ | も | も | し | も | 。 | | は | し | ン | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|----|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| つ | あ | く | ク | い | か | よ | さ | ＝ | に | 前 | れ | と | め | い | ほ | て |
| み | り | る | ロ | ゃ | ん | う | ん | | 気 | よ | に | 教 | ん | ち | た | み |
| か | ま | し | ール | う | が | せん | ち | | づ | も | 気 | え | の | ば | 足 | と |
| さ | し | て | の | な | 、 | し | 、 | | き | じ | を | て | ま | ん | は | と |
| な | た | あ | れ | な | か | て | ク | | う | ょ | つ | く | ん | い | 、 | と |
| っ | が | き | ん | れ | さ | み | 50 | | れ | う | け | れ | 中 | い | こ | と |
| て | 、 | ら | し | る | な | と | メ | | し | た | お | ま | で | の | ち | で |
| 、 | 今 | め | ゃ | の | な | て | ー | | た | し | よ | 。そ | す | 、 | で | い |
| 今 | で | か | う | だ | っ | い | トル | | っ | い | で | し | こ | 水 | い | け |
| は | は | け | は | 思 | た | つ | 、 | | レ | み | み | て | た | と | い | れ |
| 目 | 目 | た | と | い | か | の | ち | | い | る | と | 、 | だ | 水 | け | ど |
| ひ | ひ | こ | こ | ま | は | そ | | | る | こ | そ | | よ | の | す | |
| ゃ | が | も | は | す | は | の | | | こ | と | 、 | | レ | す | い | |
| う | | | は | | | | | | な | と | | | | い | | |

| | | | | | |
|-------|----|---|---|---|---|
| 市谷小学校 | 坂内 | 2 | 1 | 3 | 組 |
|-------|----|---|---|---|---|



銀賞

長きよりロングライド

目黒星美学園小学校（3年）

納 ちくちくさん

目黒星美学園小学校 三年 おさめ さくら
私は今年の夏、東京で軽井沢の、私史上、
い長の自転車ロングライドにしようと思
した。
一日目、早朝の5時半にか西りん海公園で
いっしょに軽井沢までいく、16人の友だちと
集合しました。私の3才年下の妹もいっしょ
にいきます。4才から18才までの友だちと、
その保ご者の方たちも、いっしょに走って

目黒星美学園作文用紙（二・四・五・六年）

れます。中には、とても久しぶりに会う友だ
ちもいたのです。これから二日間いっしょにい
れる、ワクワクしました。同時に、本当に転
井沢に自転車で行けるかな、と不安や心配も
しました。みんなそろってやる気じゅう分に
自転車に乗りました。初めは、何度となく通
たあら川サイクリングロード。天気がよくて、
きれいな青空の下を気持ちよく走れました。
そして、ロングライドで一番楽しいのが、休
けい地点です。さい初は20km地点にあり、あ

というまについてしまいました。お酒がい
飲みほうだい、食べほうだいですが、私は少
しだけ食べて、エネルギーをためます。次に
まっているのがどんな道かわからないので。
いちばんやる気をださせてがんばろう。とな
るのが保ご者の方のおうえんです。
「がんばれ！休けいまであと少し！」
とはげましてくれたり、休けい地点についた
時には
「がんばったね。いい！」

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

などいっしょによりこんでくれたります。
休けい地点のたびに思うのが、仲間がいるか
らがんばれる、です。保ご者の方のおうえん
や、みんなの笑顔がなかったら、きつとがん
ばれなかった、と思うからです。走り出すと
すぐにあら川サイクリングロードをぬけて、
きれいに緑が広がる所を走り、ぐんま県に入
りました。いななかだからか、すがすがしい空
気で、走りやすかったです。しばらく走ると、
昼ごはんを食べるそばやさんにつきました。

店内はすずしくて、エネルギー保ま^ちうにさ
いてきな場所でした。そばはもちもちで、お
いしかったです。また走り出すと、太陽がで
てきてけっこう暑くな^つてきました。夕方に
くま谷のホテルにつきました。温泉は、体と
心が温ま^つて、とても気持ちよかったです。
夜ごはんは、花火をみながら公園で食べまし
た。夜ごはんはやき鳥で、とてもおいしかっ
たです。食後、みんなでおにごっこをしまし
た。楽しかったです。夜おそく、それぞれの

目黒星美学園作文用紙(二・四・五・六年)

へやでねました。
二日目、朝早くにロビーにみんなで集合。
少しねむたかったです。でも外に出て、一気
に目がさめました。すずしかったからです。
きのうと同じように、ずっと走っている、
長野県に入り、さい終かん門、うすい峠に入
りました。大人でもこえるのがむずかしいの
で、こえられたらとてもうれしいです。でも
つらいです。かけがすくよこにあ^ってこわい
し、太ももがいたくてペースがゆっくりです。

年下の妹と小学生にぬかされていくのはとて
もはずかしかったし、くやしかったです。な
ので、できるだけギアを軽くして、しっか
りこぐようにしました。そうしたら、妹に追
いついたので、やる気が出てきました。妹にぬ
かされていましたが、一気にスピードを出し
て、ぬかしました。ぬかしたら、どんどんさ
をつけます。ギアを軽くしたり重くしたり、
ち^ようせいしてスピードを落とさないように
しました。ライバルの小学生にまでには届き

目黒星美学園作文用紙(三・四・五・六年)

ませんでしたが、妹よりはやくついて、ゴー
ル。とてもうれしくて、感動しました。出発
時の不安はもう、ありません。ぶじにゴール
できた時は、みんなに
「おめでとう。」
といわれたので、少しうれしかったです。内心は
とてもうれしかったです。べっそうにみんな
でついたら、ごはんまで、自由時間。私は、
ベッドでリラックスしながら、みんなとあ
えて、よかったな、と思いました。そしてこは

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

の
後
は、
車
で、
帰
り
ま
し
た。





努力すること がんばります。

光塩女子学院初等科（4年）

御園生 みそのう なぎささん

努力する事がんばります。

四年 御園生 なぎさ

私は、努力することが苦手だ。なぜなら、めんどうだからだ。努力をしても、しなくても、出来ないものは出来ない。そのようなマインスの気持ちだが、ぐるぐると心の中で回転していた。

四月のある日、運動会の応援団の募集があった。私は、一年生の時から応援団にあっていて、四年生になってオーディションを

受けるのを今か今かと待っていた。

「これだ。これなら努力できる。がんばれる。」

その日から、「努力作戦」という新しいち

う戦が始まった。大きな声で

「フリー、フリー、赤組！」

と言ったり、ダンスをおどったりと、応援団になるために、努力をした。

そして、オーディション当日――

「四年A組三十八番、御園生なぎさです。よ

ろしくおねがいします！」

「おはようございます」のあいさつが、少しぎこちなくなったりと気になる所はあったが、うまく出来た。やれる事はやった。もう大丈夫、

結果発表の日――

「それでは発表します。〇〇さん、〇〇さん、

……

（次は私だ。私だ。私だ！）

ドキドキする胸をおさえて、結果を待った。

結果は、不合格だった。あんなにあこがれ

――

ていたのに。あんなにかんばったのに。どうして不合格なの。あの子より私の方が向いている。どうして。どうして……

その日はずっと、悲しい気持ちでいっぱいだった。しかし、私は努力をした。努力をする新しいちよう戦をした。これだけでも、すばうしい。新たな道を切り開いたのだ。

たしか、オーディションが終わった時、大

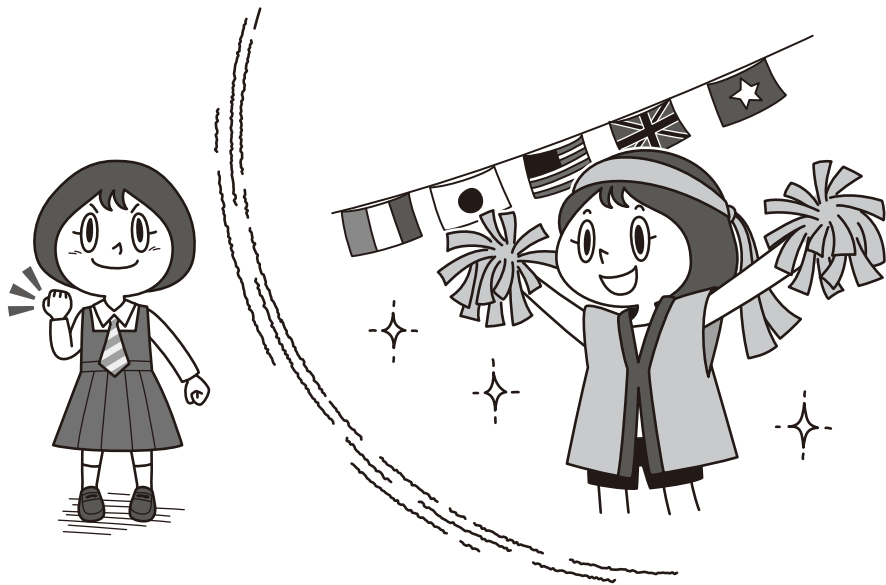
丈夫、と思ったのだ。その時は、受かっ

る気がした。受か、ていなくても、お友達を

応援しようと思っ
ていた。しかし、
応援でき
なかつた。
今回反省する
べきところは、
そこではない。
新たな一歩を
ふみだせるか
どうか、とい
うところだ。
私の一歩をサ
ポートしてく
れる人々が
すぐそこにい
る。お友達に
いやがらせを
したら、すぐ
になくなっ
てしまう。
私は、
「もう来年はあ
きらめようか
な」
と。た時、
「なかならき
と出来るよ」
とはげまされ
た。それをき
かけに、また
がんばろう。
とプラス思考
になる事が出
来た。
新しい一歩を
ふみ出すと、
このように、
見ずる事がた
く山でてくる。
そして、ち
ょうう
戦する事が
楽しくなっ
ていくのだ。
今回私は、努
力をすると、
という事を決
めて、
それをあきら
めない新しい
ちょうう戦を
した。
それによっ
て、お友達を
大切にす
る事がどの

ように、ど
れくらい大事
なのか、とい
う事を
学ぶ事が出来
た。お友達は
自分ち
ょうう戦す
る時に応援し
てくれる、大
切な仲間だ。
だから、私が
応援してもら
うように、心
援をする。新
しいちょう
う戦は、新し
い発見が
出来る。その
人にとっ
て大切な事
だから、新
たな第一歩が
なかなが
進めない予
がいた時は、
せい
い。はい。ケ
ポートしよ
うと思う。
そして、
応援団に
来年こそは
なれるよう
に、みんな
で
支えあ
う。てが
んば、て
いく。
新しいち
ょうう戦、
ありが
とう。私、
今度は
努力を身
に結ぶ事
が出来
るよう
にがんば
るね。
次はど
のような
発見が
あるだ
ろう。
お友
達は、大
事だね。
それに
気付く
のも大
事だね。
新しいち
ょうう戦
が、私
を待っ
ている。
ドキ
ドキす
る最初
の一歩
は、と
ても大
事なタ
カラ
モノ。
努力
する事
はトン
ネルの
出口
が見
えてき
た。努
力
する事
はまだ
めん
どうく
さい
と思
う事も
あ
るけれ
ど。き
つと
楽し
くな
る時
が来
る。

「
ヌ
カ
す
る
事
が
ん
は
り
ま
す
!」



銀賞

私とかるた

光塩女子学院初等科（５年）

星 里桜さん

「私とかるた」

星 里桜

「夏の夜は、まだ宵ながら、明けぬるを、何枚かのかるたがやかに落ちる、」

「雲のいづこに、月やどるらむ」

校長先生の声が聞こえる。全夏が集中して、気づいたに、自分はふしぎな空間にいた。

「昨年の秋、九月二日から、私、ロンドン、日本、人学校、学校生活がスタートした。校長先生とは、二日くらい前にあいさつをした。校長先生は、とても明るい、大阪の方だった。て

光塩女子学院

ち、あいさつの時、

「こんにちはは、校長です、百人一首は知っていますか。かるた大会があるので、がんばりましょう。」

と、いきなり言われた。とまどったが、百人一首に初めて興味をもった。この日から、私とかるたがっつなびたのだ。

私の学年は、私を入れて三人だ。二人は、一年生の時からかるたの練習をしていて、と

ても強い。だから、私もまけないように、百

人一首を一生けん命覚えた。家では、自習と

宿題が終わったに、つねに百人一首の書いてある紙を手に持ち、読みつづけた。

転校してから二十日くらいたった。ある日

曜日に、自由参加のかるた練習会があった。私は、かるたについて、あまり分からなかつたから、参加することにした。

実際にやってみると、イタリヤ人がたくさんいて、日本人は、五人くらいだった。私は、かるたが日本語だからと、イタリヤ人はなにも分からなかつたろう。そう思った。でも、実際にやってみると、日本人の何倍も強くて、名人と戦えるくらいだった。私は、何も分からなかつたので、校長先生の説明を一生けん命に聞いて、必死で覚えた。

光塩女子学院

定戦することになった。初めての試合だ。とても不安だった。どうすればいいの、と心の中をずっと思わわっている。きんちゅうレ

て、体が動かないくらいだ。

そんなことを考えている内に、十五分の暗記時間が始まった。すると、小さい声が聞こえなくなりました。とても静かになりました。私も集中して、場所を覚えた。

二時間ほどたち、試合が終わった。結果は、三四枚ほどの差で、勝つことができた。自分でもおどろいた。あんなに不意だったのに、本当に勝てるなんて思いもよらなかった。

一勝し、自信がついた私は、どうしようと残り二試合にいくことができた。そして、

光塩女子学院

二試合とも勝つことができた。最初は、初めてだから、正しい試合をできるようにすることを大切にしよう。勝ちにいけれど、ルールを理解し、相手もなっとくできる試合にすることを覚えよう。そう考えていた。だから、勝つことができて、本当にうれしかった。本番でも、このような試合をしたい。私はそう思った。

三週間がたった。六人の学習発表会に向けて、みんなが始まり、とてもいそがし

かったからか、かるたの練習ができなかった。小倉百人一首も、忘れてきていた。

どうしよう。せっかく覚えたのに、忘れてきています。

と、私はおおあわて。いそいで百人一首の書いた紙を手にとり、読んで、校長先生がかりて下さったかるたで、はらい、困り手などを練習した。

本番まであと一週間。もう実せんけいしきの練習も始めています。

光塩女子学院

みんなは、どりくらい強いだろう。勝ちたいな。

そう言いながら、毎日全力で練習をした。いよいよ本番当日がやってきた。私は小学生の部で、同学年の友だちは強いので、中学生の部でたにかう。私は、今までで一番さんちようれた。最初で最後にかかる大会だ。がらがらになつてどきどきしていると、

「里桜ちゃん、トッパスリィに入れるようにがんばってね。私にちもがんばるから。」

と、友達が声をかけてくれた。私はこの言葉で、きんちようがほぐれ、集中することができた。

生徒がそうい、試合が始まった。久しぶりに、静かな落ちついた、ふしぎな空間にはいた。そして、校長先生の声、たにみに当てる手の音と、床に落ちる二三枚のかるたの音が、校内をひびきわたる。それとともに、私の心が落ちついてゆく。そこはまるで、森の図書館のようで、気持ち良かった。

光塩女子学院

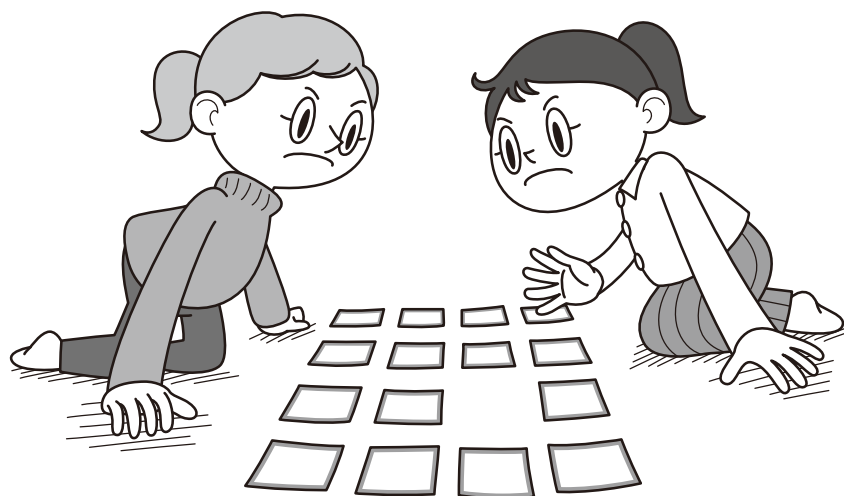
試合が終わり、結果発表が始まった。三位、二位と名前が読まれていく。いよいよ、一位の発表だ。校長先生が、名前を読んだ。

「一位、星 里桜さん」

私は名前も読ばれた。とてもうれしかった。

友達も一位と三位で、沢山喜んだ。

あれから二ヶ月がたち、ロームとの別れが決まった。さみしかった。でも、校長先生が、半年で百人一首も覚えたのはすばらしい。とほめてくれた。今でも忘れない喜びだ。





銀賞

未来の私へとどけ！

光塩女子学院初等科（5年）

安田

茉希さん

「未来の私へとどけ！」 5B 安田茉希

私が新しく挑戦したことは、三年日記です。なぜ始めたかというところは、私を思いを未来の私に届けたいからです。私は今様々なしように夢があります。アナウンサーや気しょう予報士、医者、料理人、その他にもい、ばいあります。今気にな、ているのが「作家」です。たまに自分が子供のころの本を書いている作家がいます。そして私はすごくその本が大好きです。私もそんなふうになりたい

光塩女子学院

なと少しあこがれています。ですから三年日記を書いて未来の私が読んでおもしろいなと思ったりもしくは作家にな、に私が読んで何かの参考にしてくれたらいいなと思います。私の書く三年日記は一ページに三つ書く場所があります。去年の私がすぐ見られるようになっています。去年の私の今日はどんな日だ、たんだろうと思えばすぐわかります。だからその時に失望させないように正直に書きたいです。そして、「おもしろい！」と笑、てくれたら

いいなと思います。

前に友達とけんかしてすごくいらした時に日記に書くとしおさま。たり、お店のマネキンのかつらがあちて笑、った時書くと来年を私は笑、てくれるかなと思、たりします。悲しいことがあ、ても来年の私がなぐさめてくれる気がして安べします。三年日記を書くことで私の毎日のわくわくや楽しみが一つ増えました。来年の私は日記を書くのと日記を読むのでも、とわくわくや楽しみが増え

光塩女子学院

再来年の私は日記を書き二つ日記を読むので、とわくわくや楽しみが増えると思、います。そしてゴツゴツと毎日書いて私の幸せを無限大にしたいです。

これで私は作家へ一歩近づけたと思います。それはこの作文を書いたことと三年日記を書いていることです。そして再来年はもっと近づいて一冊の三年日記という本ができています。内容がばれとモチがう世界で一つの私の本ができてると思います。

この作文を書いている時母が作家さんはもっともと原こう月紙に書くんだよね。つらさがわか、た？と聞いてきました。私はゲゲッと思いましたが、かというと母は私が作家になりたいたいことを知らなかつたからです。私はこの作文よりも、と多い量を書いている作家はつかれるのにすごいなとそんなけいします。書いている人は楽しいんじゃないかと思えます。私が作家となつて自分が書く本がたくさんの人に読んでもうえろとしたらすごく楽しくてうれしいです。私よりも、ともとたくさんの体験をしている作家は、たうも、と楽しいんじゃないかと思ひました。私が子どもころの話を書きたい理由は私自身が「ああ、子どものころこんなことがあつたな」とふりがえつたり「なんでこの時この行動をとつたのだろう」と考えることができるからです。そして読んでいる人も子どもだつたらたぶん今の私のように親近感を感じたり、大人だつたら「私も

光塩女子学院

こんな時があつたな。なつかしく感じて楽しく読んでくれると思います。しょう来の夢が作家と決まつたわけではありません。まだ他にもたくさんいい職業があります。でもどちらにしても三年日記は私の夢を見つけていいき、かけになると思ひます。そして、三年日記だけではなく、といふ、は夢を作るき、かけがあると思ひます。私はそのき、かけを見つけていい夢を見つけたと思います。そう思うと楽しみになりました。

光塩女子学院



銀賞

ぼくが考えたこと

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部 (6年)

佐々木 槇之介さん

ぼくが考えたこと

佐々木 槇之介

「ぼくのチームに入っ
てよ。もう一度野球
をやろう。」

六年生になっ
た六月のある日、ぼくが五年
生まで所属していた少年野球チームの友達か
ら母にメールが届いた。ぼくは小学一年から
続けていた野球チームを五年生で辞めてしま
った。理由はぼくが耳が聴こえないからだ。用

りのチームメイトのコミュニケーションが難
しくて、仲間外れにされたからだ。た。

野球を辞めて、ぼくはもう学校の友達に誘
われてスケボーを始めた。土日はずっ
と練習ばかりしていたので家族がキャンプや旅行に
連れていってくれた。楽しかった。たので、そ
でいいんだと思っていた。

だからメールがきた時ぼくは迷っていた。

このまま小学部を卒業するまで楽しいままで
いたい。練習は大変だし、朝は早いし、また

聴こえる友達とコミュニケーションをとかな
くちやいけない。でも五年生までせっかく頑
張って続けてきた野球を辞めてしまうのはも
たいない。ぼくはどうしたらいいのか迷って
しまった。

でも、ぼくはもう一度野球をやることに決
めた。潮見パワーズというチームに入るこ
が決まった。みんなとても優しく、とても
楽しかった。しかし、パワーズのみんなと仲
良くなって、コミュニケーションをとるの
がとても大変だった。でもチームのみんなが
気を使ってくれて、分かりやすく、くり返し
てくれた。ぼくは、パワーズに入って良かっ
たなと思った。

ぼくはチームの中の二人と仲良くなった。
ぼくもふくめた三人で夏休みに江ノ島に行く
ことになった。子どもだけで遠くまで出か
けするのは初めてで、電車の行き方を調べた
り、お店を調べたりした。当日は江ノ島の展
望台に行ったり、水族館でイルカショーを見

たりしてとても楽しかった。途中で道が分からなくなるとマップで調べたり、知らない人に教えてもらったりして大変だったけれど楽しかった。

今までの六年間をふり返ると、苦しいことも楽しいこともたくさんあった。その中で一番苦しかったことは、聴こえる友達とコミュニケーションをとりながら生活することだ。聴こえる人が何を言っているのか分かりず、とても苦しかった。でも初めて聴こえる友達ができ、分かっていくうちに、聴こえない人と話せるようになった。今までこんな人に会ったことがなかったし、聴こえる人が聴こえない人に優しくしてくれることがこんなにも嬉しいことなのかと初めて思った。

だけど、聴こえないことは大変だと思いつた。来事がある一つあった。もう学校の友達と映画を観に行き、た時のことだ。『お、さんラグーン』という映画を観るためだ。でもその映画には字幕がなく、ち、とも楽しかった。外国の映画には字幕がつくのに、な

ぜ日本の映画には字幕がないんだらう。

字幕がないだけで、聴こえる人との差があるのだと初めて実感した。聴こえる人も聴こえない人も皆で一緒に楽しむことは不可能のよう感じた。どうしたらいいのか、ぼくは考えるようになった。

聴こえる人と聴こえない人が関わり合えるようにするためには、まず近くの学校と交流し、ろうの世界を知ってもらふことだ。もっともっと聴こえる人にろうの世界を知ってもらふことが大切だと思う。聴こえる人も聴こえない人も当たり前のように楽しむ世界にするために、ぼくにできることは何かを考えていきたい。

銀賞

自学ノートとライバル

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部 (6年)

原 健人さん

自学ノートとライバル

原 健人

「カリカリ……よし、できた!!」

自学ノートでわからない漢字や歴史について調べた。宿題は簡単に終わらせようと軽く考えていた。

六年生になったばかりのある日、社会のテストが返ってきた。斉藤君が

「点数は何点だった?」

と聞いてきた。ぼくは

「95点」

と堂々と言うと、斉藤君は百点のテストを見せてきた。ぼくは、びっくりしたと同時に悔しい感情がわいてきた。ぼくは、歴史マンガが好きでよく読んでいた。でも95点だった。斉藤君はどうやって歴史を覚えたのだろう。色々な質問をして、歴史の話をすることが多くなった。この人に負けないように、追い付きたい、やるぞと心が熱く燃えてきた。

家に帰って、最初は宿題を片付けた。自学ノートをやる時、「今日は、何のテーマにしようか?」と考えた。もし、テーマが決まらなければ歴史や科学、苦手な教科の本、インターネットなどで調べて、大事な所や、覚えた所だけ書き取った。文だけ書くのはつまらないので、絵も書いた。調べる量が自然と増えていき、自学の時間も長くなった。歴史だけでなく、自分が興味を持った事をどんどん調べていくとすぐに頭に入っていた。知り

たいと思った内容はインターネットですぐに調べる事が出来て便利なので使う機会が増えていった。

学校の授業は分かりやすくテストの問題もよく分かるようになった。斉藤君は相変わらず百点ばかりとっているがぼくも百点を取る事が増えた。家の学習も集中して、あつという間に夕食の時間になっっている。無心になっ

て勉強しているので、自学はちっとも苦ではない。

ぼくが大切にしている言葉がある。
 「雨だれ石をうがつレ」
 これは母から教えてもらった言葉だ。何年も
 垂れると石に穴を開けることができるという
 意味がある。少しずつ努力を続けければ、いい
 結果が出るということだ。このように、少し
 ずつ努力を続けて、斉藤君に追い付きたい。
 追い付きたいけれど、まだ追い付けないから
 斉藤君はぼくのライバルだ。つれからも追
 続けて、距離が一步でも近づくように挑戦を
 続けていく。



作文の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

臂 美沙都
橋浦 龍彦

練馬区立高松小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

北区立豊川小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

今年の作文テーマは「新しく挑戦をしたこと」。応募された作品は、どれもみなさんが新たに挑戦したことが一生懸命に綴られていて、挑戦に燃えるみなさんの姿が目に見え、応援しながら読ませていただきました。

低学年は、たくさん「初めて」が詰まっている学年です。何事にも恐れず、わくわくしながら挑戦する様子が見られました。生活の中で体験する「初めて」に果敢に挑戦しているみなさん。できるようになってきたことを素直に喜び、大きな一歩を踏み出した印象をもちました。

中学年は、習い事や興味をもったものに課題を見つけ、挑戦する姿が多くありました。目標に向けて、何度も何度も挑戦していて勇気をもらいました。お友達や家族など人との関わりの中で、さらには上を目指す姿が素敵でした。

高学年は、さすが高学年という文章。比喩表現や文章構成の工夫など多くの工夫が凝らされていました。挑戦するためにやったことやその時の心の動きなどが、表現豊かに綴られていました。非常にテンポがよい作品が多く、どんな作品の世界に引き込まれました。

今年は、東京2020オリンピック・パラリンピックが開かれる年です。「努力は裏切らない。走った距離もそうですけど、毎日の積み重ねがすぐくものを言う。」これは、アテネオリンピックでマラソン金メダルを獲得した野口みずきさんの言葉です。今回、出品された全ての作品を拝見し、気づいたことがあります。それは、新たな挑戦の裏には、必ず「みなさんの努力」が隠されていたという事です。「やってみよう」と思っても、努力を続けることはなかなか難しいです。しかし、課題



審査中の臂美沙都先生（左）、橋浦龍彦先生（右）

を見つけ、前向きに挑戦し続けたみなさんだからこそ、その先でたくさんさんの「宝物」を手に入れられたのだと思いました。
思いを言葉にすることは、意外と難しいことです。しかし、文の巧みさ以上にどの応募作品からも「伝えたい」という思いが、強く感じられました。素敵な思いを大切に、これからも「書くこと」で伝えることを楽しんでほしいと願っています。





私の大切なもの……………絵画造形サークル（1年）
 冬のお友だち……………目黒星美学園小学校（2年）
 文ぼう具パズルのぼう子……………東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部（3年）
 夜のこどくなカメレオン……………墨田区立中川小学校（4年）
 おかあさんが大好きなりく……………瑞穂町立瑞穂第四小学校（5年）
 雷と共にLet's Fly……………町田市立南大谷小学校（6年）

村松 綾音さん
 杉本 彩恵さん
 安宮 凛さん
 矢澤 祥真さん
 佐々木 蓮さん
 小池 慧明さん



ないたウミガメ……………光塩女子学院初等科（1年）
 バーベキュー中のようなす……………東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部（1年）
 ひみつのおうち……………世田谷区立山野小学校（2年）
 いけ！リレー……………東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部（2年）
 ねらわれているとり……………世田谷区立山野小学校（3年）
 大マグロの親子……………中央区立常盤小学校（3年）
 考える人……………世田谷区立山野小学校（4年）
 せんこう花火をしている少女……………世田谷区立山野小学校（4年）
 ぞうの玉のイリュージョン……………八王子市立式分方小学校（5年）
 ふぶきをかけぬける鹿……………福生市立福生第一小学校（5年）
 ヤシの木のようなソテツ……………東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部（6年）
 不動明王……………港区立芝小学校（6年）

丸山 礼さん
 小山 高晃さん
 徳瀨 璃子さん
 片本 結菜さん
 中村 煌太さん
 金子 泰欽さん
 川松 叶芽さん
 町田 あきらさん
 小笠原 太吾さん
 細谷 奏介さん
 佐藤 建佑さん
 五十嵐 大紘さん



雪あそび……………絵画造形サークル（1年）
 ちようちよとはなのみつ……………白百合学園小学校（1年）
 暗闇の生き物たち……………目黒星美学園小学校（1年）

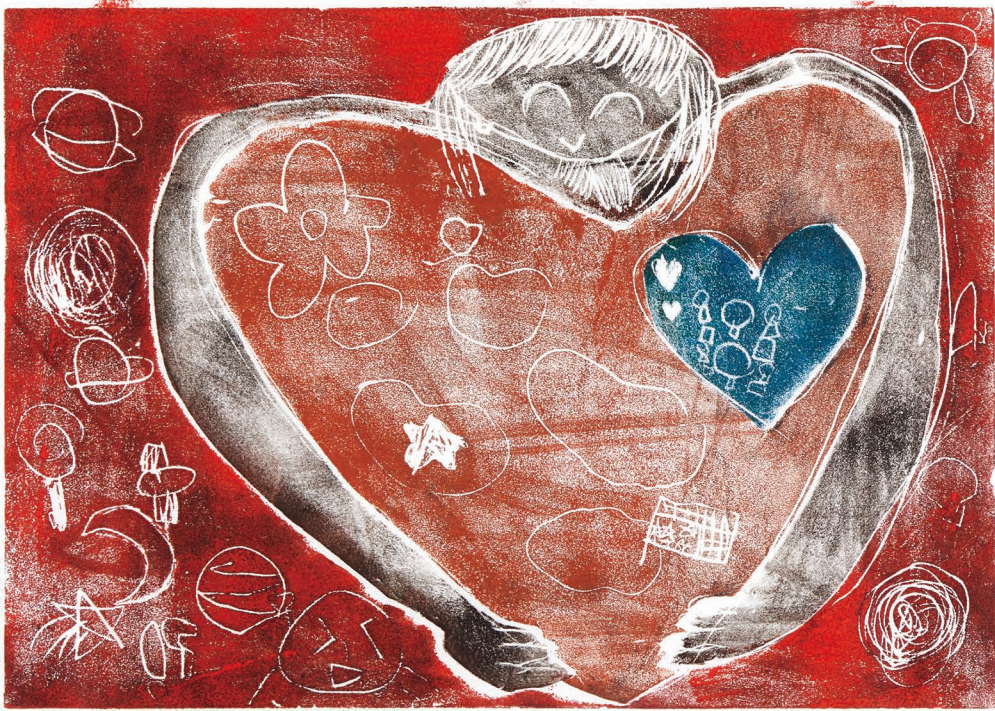
古谷 麻央さん
 下田 理央さん
 近山 七生さん

コンクール入賞者

| | | |
|------------------|----------------------|--------------|
| 絶滅危惧種 シマフクロウ | 成蹊小学校 (2年) | 元永 陸さん |
| 手の国 | 世田谷区立山野小学校 (2年) | 府内 葵さん |
| 川の上をあるくねこ | 中央区立常盤小学校 (2年) | 岸和田 玲菜さん |
| 聖火をもって走る私 | 東京都立大塚ろう学校小学部 (2年) | 酒井 美空さん |
| いるかたろうくん | 東京都立大塚ろう学校 (2年) | 高橋 一星さん |
| 雪ふるふる | 江戸川区立東小岩小学校 (3年) | 上山 篤人さん |
| キリンと木 | 光塩女子学院初等科 (3年) | 渡邊 ここみさん |
| 犬 | 世田谷区立山野小学校 (3年) | 秋山 航輝さん |
| 森を走るトラ | 世田谷区立山野小学校 (3年) | 佐々木 敢大さん |
| お弁当 | 東京都立墨田特別支援学校小学部 (3年) | アフォンニ マフシムさん |
| すぐく笑ってる顔 | 葛飾区立亀青小学校 (4年) | 小金 海斗さん |
| 白くじゃく | 光塩女子学院初等科 (4年) | 田代 なつみさん |
| ウホウホウホウホ | 墨田区立第三吾嬬小学校 (4年) | 松浦 笑和さん |
| ワシよ | 世田谷区立山野小学校 (4年) | 土元 一輝さん |
| へび | 東京都立大塚ろう学校 (4年) | 猪股 煌平さん |
| 葉っぱの中にかくれんぼ | 足立区立平野小学校 (5年) | 本坊 陽愛さん |
| 野球準備 | 葛飾区立こすげ小学校 (5年) | 杉本 大樹さん |
| おはよう、朝日さん | 東京都立大塚ろう学校 (5年) | 北畑 咲希音さん |
| 光の速さで飛ぶイヌワシのワッシー | 瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年) | 島袋 優太さん |
| 木のぼりがとくいなゴウ | 瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年) | 杉本 蓮也さん |
| 猫の時間 | 絵画造形サークル (6年) | 馬淵 春菜さん |
| 輝くかめ | 中央区立有馬小学校 (6年) | 山崎 美優さん |
| 不思議な生き物 | 東京都立大塚ろう学校 (6年) | 上川 心愛さん |
| 何かを見つけた雷神 | 町田市立南大谷小学校 (6年) | 篠塚 桃さん |

金賞

私の大切なもの



絵画造形サークル（1年）

村松

綾音さん

選評

この作品はスチレン版画で、自分の表したい感じをのびのびと線で表しています。笑顔の女の子は、腕を大きく伸ばし、自分の大事なものを包み込んでいます。その上、その腕の形がハート型であり、女の子の表情とともに、作者の気持ちの温かさが伝わってきています。作品に近づいて向き合くと、思わず見る側を幸せな気持ちにしてくれる作品です。この温かさは、きっと作者に通ずるものなのでしょう。



金賞

冬のお友だち

目黒星美学園小学校（2年）

杉本

彩恵さん

選評

寒い冬の日。雪が降っている
のでしょうか。空から、雪が静
かに舞い降りています。この女
の子はマフラーや手袋をしてお
り、この雪の降る寒さの中も、
思わず笑顔がこぼれ、軽やかに
雪の中に立っています。足元の
生き物も女の子と一緒に嬉しそ
うですね。季節とともに、髪
毛の動きの表現等、作者の気持
ちがあふれる紙版画の作品です
ね。



文ぼう具パズルのぼう子

東京都立大塚ろう学校
永福分教室小学部 (3年)

安宮 凜さん



選評

こんな帽子があつたらいいな
と想像して、帽子をかぶった自
分を紙版画で表していますね。
安宮さんは、文房具が好きなの
でしょう。ハサミの形、鉛筆の
形、消しゴムの形：細かい部分
まで部品をつくって、よく表さ
れています。一色でなくて、何
色も使って刷って表した感じ
も、版画のよさを活かしていて、
とても面白いです。

金賞

夜のこどくなカメレオン



墨田区立中川小学校（4年）

矢澤

祥真さん

選評

4年生で初めて彫刻刀を使って彫った作品でしょうか。彫った線が、ゆっくりと絵を描くように作品の中に広がり、作者が楽しんで彫る姿が目に浮かびます。中心は木の枝につかまる月光に輝くカメレオン。体が輝く感じ、木につかまる手足の感じが生き生きと表されていますね。周りには風が吹いている感じも伝わってきます。作品を見た人に、作者の力強いパワーを与えてくれる木版画の作品です。



おかあさんが
大好きなりく



選評

親子のペンギンの温かい関係
が伝わる作品です。親ペンギン
は頭を下げ、子を気遣っていま
す。その温かさを受け、子ペン
ギンは力強く前を見つめてお
り、作者の意志の強さも感じら
れます。彫り進み版画は重なる
色、その先も予測して彫り進め
る版画ですが、ペンギンの羽根
の流れ、くちばしの赤等、効果
的に表し、ペンギンの一瞬を切
り取った印象的な作品です。

瑞穂町立瑞穂第四小学校（5年）

佐々木 蓮さん



雷と共に Let's Fly

町田市立南大谷小学校（6年）

小池 慧明さん

選評

6年生らしく、「風神雷神図」の雷神を迫力ある構成で切り取り、木版画で表しています。彫り残して細い線や点を表すのはとても大変ですが、しっかりと版をつくれていてすばらしいと感嘆しました。そんな慎重な作業と同時に、彫った線からは、勢いのよさが伝わってきて、この作品がいきいきと見えるのだと思いました。



ないたウミガメ

光塩女子学院初等科 (1年)

丸山 まるやま

礼さん れい



バーベキュー中の ようす

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部 (1年)

小山 こやま
高晃さん たかあき





銀賞

ひみつのおうち

世田谷区立山野小学校（2年）

徳渕 とくぶち

璃子 りこさん

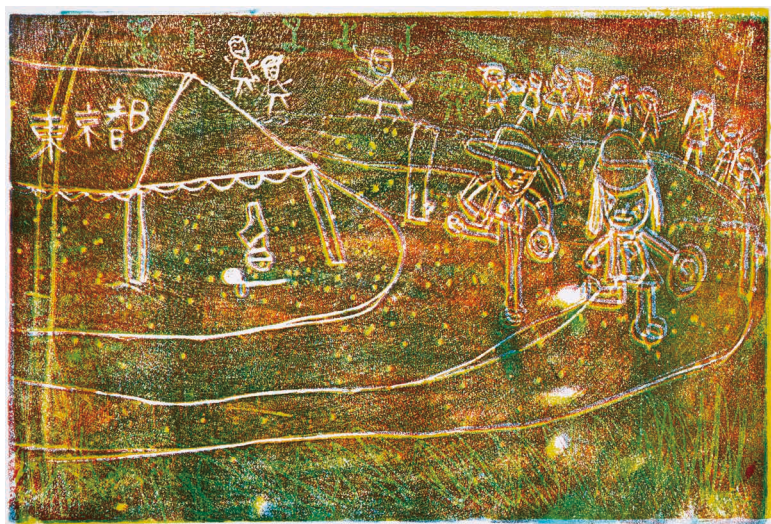
銀賞

いけ！リレー

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部（2年）

片本 かたもと

結菜 ゆうなさん



銀賞

ねらわれているとり

世田谷区立山野小学校（3年）

中村 煌太さん
なかむら こうた



銀賞

大マグロの親子

中央区立常盤小学校（3年）

金子 泰欽さん
かねこ てふあん





銀賞

考える人

世田谷区立山野小学校（4年）

川松

かわまつ

叶芽さん

かなめ

銀賞

せんこう花火を
している少女

世田谷区立山野小学校（4年）

町田 まちだ
あきらさん





ぞうの玉の イリュージョン

八王子市立式分方小学校（5年）

おがさわら
小笠原

たいち
太壱さん



ふぶきを かけぬける鹿

福生市立福生第一小学校（5年）

ほそや
細谷

そうすけ
奏介さん





銀賞

ヤシの木のようなソテツ

東京都立大塚ろう学校
永福分教室小学部（6年）

佐藤 建佑さん
さとう けんゆう

銀賞

不動明王

港区立芝小学校（6年）

五十嵐 大紘さん
いがらし まさひろ



版画の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

田中
明美
齋藤

明美
貴子

品川区立立会小学校図画工作専科主幹教諭（東京都図画工作研究会）

荒川区立第二峡田小学校教諭（東京都図画工作研究会事務局庶務部長）

版画は、どのように表すか考え、できあがり想像して、材料を変化させて版をつくり、インク等をつけて、紙に刷って写して表すという工程の多い活動です。思い付いてすぐに紙などに描く表現とは違い、できあがりや作業工程をふまえて、計画的に行わなければなりません。また、指導される方も材料・道具を用意したり、刷る場所を確保したりするなど準備も大変です。しかし、材料の使い方や刷り方によって、一言で版画と言っても多様な表現があり、図画工作科で身に付けるべき力をたくさん活かすことのできる活動なので、各学年の教科書には必ず版画題材があります。

今回出品されている一、二年生は、子供たちにとって、初めて経験する版画も多かったと思います。楽しさ、驚きを感じながら、紙版画やスタンブ版画など、形を

よく考えてつくっている作品がたくさんありました。色も様々で楽しく活動した様子が想像できました。

三、四年生は、一、二年生で行ったことを活かしているように感じました。三年生では、いろいろな材料を組み合わせての版づくり、四年生では、初めての彫刻刀を使っての木版画の作品が多かったです。それぞれ、材料をよく味わって作品づくりをしているという印象をもちました。一番作品数が多く、多様な作品があつて、見ごたえがありました。

五、六年生は、木版画でも何色も使って刷っていたり、彫り進み版画という、彫ると刷るを交互に繰り返して作品を完成させる版画を行っていたりしました。工程が複雑になっている中、計画的にできあがりイメージしながら、根気よく一生懸命につくり上げたこ



審査中の田中明美先生（左）、齋藤貴子先生（右）

とが伝わってくる作品ばかりでした。画面のどこに主題をおけば効果的なかなど、高学年らしい工夫も見えて取れました。

審査では、版画らしいよさが表れていることを中心に、作者の思いや作者らしさが感じられる作品を選びました。

最後になりましたが、子供たちの豊かな表現を引き出し、作品を応募してくださった指導者、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

応募いただいた学校と作品数



| 学校名 | 作文 | 版画 | 合計 |
|---------------------|-----|-------|-------|
| 足立区立千寿常東小学校 | 1 | | 1 |
| 足立区立平野小学校 | | 68 | 68 |
| 板橋区立蓮根小学校 | 1 | | 1 |
| 江戸川区立東小岩小学校 | | 57 | 57 |
| 絵画造形サークル | | 5 | 5 |
| 葛飾区立亀青小学校 | | 74 | 74 |
| 葛飾区立こすげ小学校 | | 10 | 10 |
| 北区立岩淵小学校 | 1 | | 1 |
| 光塩女子学院初等科 | 24 | 5 | 29 |
| 狛江市立狛江第三小学校 | 1 | | 1 |
| 聖徳学園小学校 | 1 | | 1 |
| 白百合学園小学校 | | 1 | 1 |
| 新宿区立市谷小学校 | 5 | | 5 |
| 墨田区立第三吾嬬小学校 | | 36 | 36 |
| 墨田区立中川小学校 | | 42 | 42 |
| 成蹊小学校 | | 1 | 1 |
| 世田谷区立山野小学校 | 1 | 554 | 555 |
| 中央区立有馬小学校 | | 281 | 281 |
| 中央区立常盤小学校 | | 72 | 72 |
| 調布市立上ノ原小学校 | 1 | | 1 |
| 帝京大学小学校 | 18 | | 18 |
| 東京学芸大学附属世田谷小学校 | 1 | | 1 |
| 東京都立大塚ろう学校小学部 | | 5 | 5 |
| 東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 | 7 | 25 | 32 |
| 東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 | | 21 | 21 |
| 東京都立墨田特別支援学校小学部 | | 12 | 12 |
| 中野区立白桜小学校 | 15 | | 15 |
| 練馬区立下石神井小学校 | | 19 | 19 |
| 練馬区立泉新小学校 | 28 | | 28 |
| 練馬区立立野小学校 | 1 | | 1 |
| 八王子市立式分方小学校 | | 22 | 22 |
| 福生市立福生第一小学校 | | 20 | 20 |
| マクタ作文教室 | 7 | | 7 |
| 町田市立南大谷小学校 | | 16 | 16 |
| 瑞穂町立瑞穂第四小学校 | | 74 | 74 |
| 港区立芝小学校 | | 5 | 5 |
| 明星小学校 | 1 | | 1 |
| 目黒星美学園小学校 | 11 | 9 | 20 |
| 総計 | 125 | 1,434 | 1,559 |

(50音順)



応募作品数・学校数



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|------------|
| 応募作品数 | 7 | 16 | 12 | 8 | 23 | 59 | 125 |
| 応募学校数 | 5 | 8 | 7 | 4 | 5 | 7 | 18 |



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合 計 |
|-------|----|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|
| 応募作品数 | 19 | 213 | 293 | 487 | 304 | 118 | 1,434 |
| 応募学校数 | 6 | 7 | 8 | 12 | 10 | 6 | 24 |

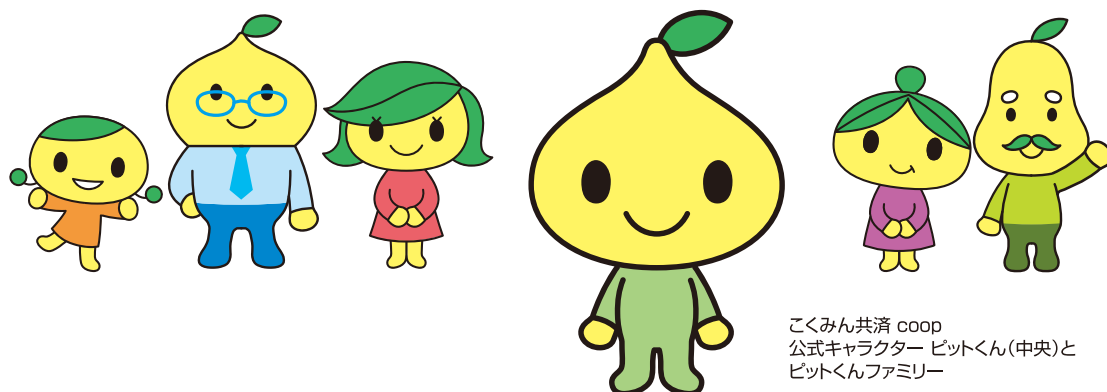
応募作品数合計……………**1,559**点

応募学校数合計……………**38**校

※作文の部、版画の部の両方、および複数の学年にご応募いただいた学校があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

こくみん共済 coop 東京推進本部

2019年6月、 全労済から「こくみん共済 coop」へ



こくみん共済 coop
公式キャラクター ビットくん(中央)と
ビットくんファミリー

全労済は、60年にわたって組合員の暮らしや災害に向き合い、たすけあいの輪を少しずつ広げてきました。

“誰一人、とり残さない社会へ”

新しい時代、その輪をさらに強くむすぶために——

2019年6月より新たな愛称「こくみん共済 coop」を定めました。

こくみん共済

総合医療共済

せいめい共済

火災共済

自然災害共済

マイカー共済

自賠償共済

交通災害共済

団体生命共済

新セット移行共済




「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済 〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会 

東京推進本部

(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8

TEL : 03-3360-6055